



すべての人に、食べ物を。

Food for all people

Annual Report 2013



SECOND
HARVEST
セカンドハーベスト ジャパン

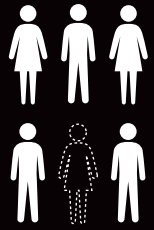
今、日本で賞味期限が切れていないにも関わらず
捨てられる食品は、年間300～400万トンにも上ります。
それは日本のお米の生産量の約半分にもなります。

平成24年度 農林水産省「食品ロス削減の取組」より、事業系廃棄物のうち可食部分と考えられる量

たとえばこんな理由で捨てられてしまいます。

商品の売れ残り 在庫	包装の破損 表示ミス	規格外 余剰農作物
3分の1ルール 製造から賞味期限までの期間を3分の1に区切り、小売店への納入までと消費者に販売するまでのそれぞれ3分の1の期間が過ぎた食品は廃棄されたり返品されたりしてしまう。		

約**6**人に**1**人
日本では月に10万円以下で生活している人がいます。
(厚生労働省、OECD、また独自調査による)

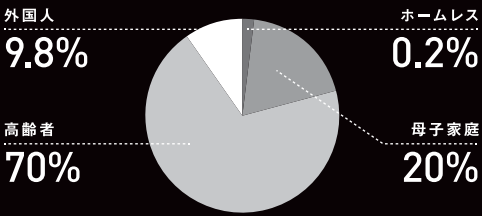


その中でも
フードセキュリティ※に欠ける人は

約**230**万人
いると見積もっています。

※社会生活の中で安全かつ十分に栄養のある食べ物を得られること

[230万人の内訳]



さまざまな理由によって膨大な
食べ物が捨てられている一方で、
食べ物に困っている人がいます。

すべての人に、食べ物を。

Food for all people.

私たちは、
日本初の
フードバンクです。

私たちの名称は、
「すでに収穫された畑から二度目の収穫をする」
という考えに由来しています。
セカンドハーベスト・ジャパンは、
「フードバンク・ジャパン」として活動していた当初から、
人びとを支援する事に従事してきました。

フードバンクとは、食品を寄贈していただき、
それらを児童養護施設の子どもたちや
DVから逃れた方のためのシェルター、
さらに路上生活を強いられている人や
生活困窮者などの元に、届ける活動のことです。

フードバンクの流れ



寄贈食品



SECOND
HARVEST

フードバンク



個人を支援する
施設・団体

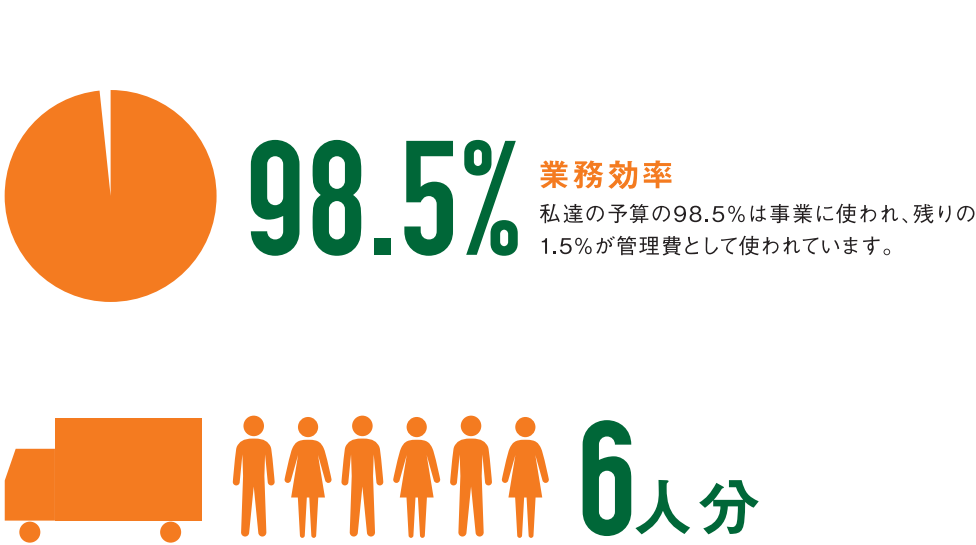


食べ物に
困る人びと

Second Harvest Japan by the Numbers

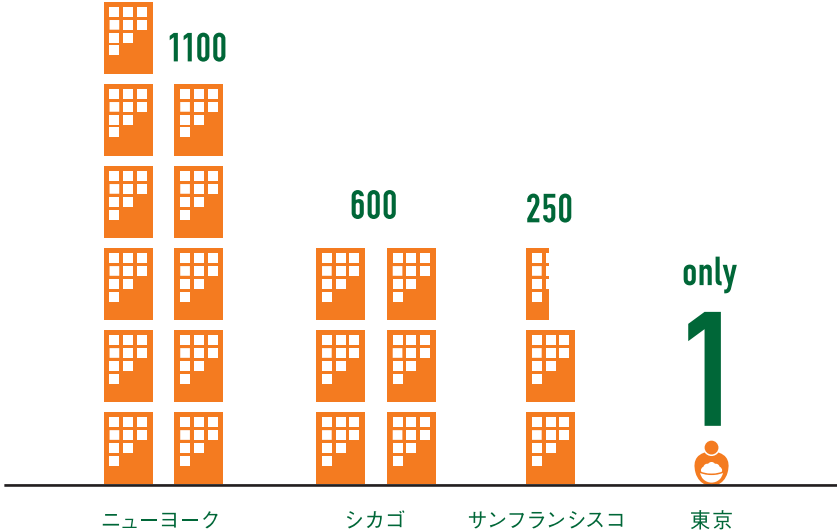
数字で見るセカンドハーベスト・ジャパン

※2013年12月31日現在の数字です。



フルタイムスタッフ約6人分に相当するドライバーボランティア

フードバンク活動を語る上で欠かせないのがドライバーボランティアの協力。食品を引き取り、運び届ける、いわばフードバンクの大動脈を担うドライバーボランティアとアシスタントの活動時間は、フルタイムスタッフ6人分にも相当します。



東京で食品を受け取れるたった一つの場所

病院や消防署、警察は各地に存在しますが、食べることに困った場合、それに応じてくれる場所は非常に限定されます。フードバンク発祥の地、アメリカでは食品を受け取れる拠点は数多くありますが、東京では2HJが唯一の存在です。

2013年中に食品を受け取った延べ人数 地方フードバンクへの配送分除く



2013年中のボランティア 活動時間



2002年から今までの経済インパクト



2002年から今までの取り扱い食品重量



フードバンクを広めるための私たちの活動

「すべての人に、食べ物を」この理念を実践すべく、ボランティア活動の実施と講演・取材に応えた回数は合計で582回にも上ります。この数字は平均すると毎日1回以上、私たちの活動がどこかで行われていることになります。

セカンドハーベスト・ジャパンは、
「すべての人に食べ物を」という理念のもと、
4つの柱で活動をしています。

01 Harvest Kitchen
ハーベストキッチン
毎週土曜日、生活困窮者を対象に
温かい食事を提供する活動です。



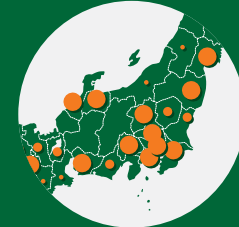
02 Harvest Pantry
ハーベストパントリー
食べ物が必要な世帯に、米や調味料
などの食品類を提供する活動です。



03 Food Bank
フードバンク活動
NPO、福祉施設、教会などに
大口で食品を提供しています。



04 Advocacy and Development
政策提言と発展
フードバンク活動の普及と、
フードセキュリティ向上のために
政策提言を行っています。





Harvest Kitchen

ハーベスト キッチン

生活困窮者を対象に、温かい食事を提供する活動です。

毎週金曜日の準備と、毎週土曜日の食事提供を、多くのボランティアの皆さんのご協力を受けて行っています。

毎回、種類も量も違う食材から何を作ろうか？定期的に参加しているレギュラーボランティアさんと一緒に献立を考え、初回のボランティアでも楽しめるよう、皆でアイデアを出して工夫を重ねています。毎週金曜日に仕込みを行い、翌日土曜日に仕上げた料理を車に乗せて出発。配布場所の上野公園に並ぶ人数により量の配分を考えて準備完了。雨の日も風の日も炊き出しを待っている方がいます。天候などの理由でキャンセルになったことは一度もありません。この活動は参加された皆さんとのチームワークによって実現できています。

2013年度の活動

最後の避難所、旧騎西高校での炊き出し活動を継続

東日本大震災の福島第一原発の事故から逃れ、福島県双葉町から埼玉県加須市の旧騎西高校に避難してきた方々へ炊き出しを2012年から開始し、2013年12月の避難所閉鎖まで合計18回行いました。炊き出しのレギュラーボランティアと、企業、特にスターバックス株式会社様とモリソン・フォースター外国法事務弁護士事務所の方々に参加していただきました。閉鎖される直前の最後の炊き出しには、退所されて旧騎西高校の周辺に住まわれている方々も集まってくださりました。



ボランティアと共に作る安全面、衛生面改善への取り組み

外部から衛生と設備管理のプロを招き、2013年の1月より毎月、衛生面、安全面、作業効率改善の為にアドバイスを受けてきました。機材の配置の変更、調理器具の収納場所の変更、冷蔵・冷凍庫の清掃手順とスケジュールの明確化などを行った結果、12月には衛生管理基準の70%を達成。ボランティアの皆様ともこうした取り組みを共有し、少しずつ集めた募金で備品の新調も行いました。10年近く使い続けたガスバーナーが新調されたことは、皆さんと作り上げた安全性の1つと言えます。



受け取った方からの声

炊き出しに並ぶ中で知り合いもできました
食事を受け取っているナカノさん

最初にセカンドハーベスト・ジャパンの炊き出しに並んだのは4年前です。知り合いからの情報で「上野公園で炊き出しをやっているよ」と聞きました。始めは不安がありましたが、徐々に慣れて来て知り合いが増えました。提供される食事は量も種類も多く、毎回美味しくいただいています。特に、卵焼きとか魚の煮付けが美味しかったです。

炊き出しは私にとってボランティアの機会でもあります
食事を受け取っているタヤさん

セカンドハーベスト・ジャパンから出るメニューでは煮物と魚料理が特に好きです。昔は田舎で農家をやっていたので、食べ物は残さないよう心がけています。炊き出しが実施される日には、毎回、駅から上野公園に向かい、スタッフの方と一緒に炊き出しに並ぶ方の列整理や人数のカウント、車両の誘導を手伝うボランティアもしています。

ボランティアさんの声

誰にでも欠かせない食を届けたい
島村 佳子さん

フードバンクの活動は海外滞在時に知りました。余剰を、必要とする人々に届けるシステムに興味を持っていたところ、日本にもあることを報道で知り、早速応募。食は生きてゆくために必要不可欠なもの。それが脅かされている人々が安心してアクセスできる場所を目指し、微力ながらお手伝いしています。

きっかけは会社のCSR プログラム
ジョナサン・フィールドさん

6年ほど前から会社のCSRプログラムの一環で社員のため意義がある社会的な活動を探し、2HJに関わるようになりました。今までにも、多くの社員が土曜日の炊き出し活動に参加しました。そして私個人として2HJの活動を見て本当に感動したため、今でもボランティアとして参加しています。

2013年度の実績

ボランティア参加人数合計(延べ)

9,692人

上野公園と旧騎西高校

炊き出し配給数(合計)

15,757食

今の課題と今後の展望

新たな活動と衛生環境の更なる向上へ

炊き出し活動で取り組むべき課題は2つあります。1つ目は、新たなボランティア活動を開始することです。ボランティア登録者数は、12月の時点で4,900名を越え、参加希望者が増えるなか、現状では参加できる活動が限られています。2014年は、ハーベストキッチンでより多くのボランティアが活動に関われる機会をつくっていく必要があります。2つ目は、昨年に引き続き衛生管理の徹底とその継続です。炊き出しの中心メンバーであるクッキングリードを対象にした、衛生と設備管理のプロによる講座も開きます。必要な備品を揃え、作業マニュアルやチェックリストを作成し、毎回の活動で同じ作業環境や衛生環境が保たれるようにしていきます。



Harvest Pantry

ハーベスト パントリー

誰もが安全で栄養のある食品を手にすることが出来るということが、基本的なセーフティネットの一部であるべきだと私たちは考えています。そうしたフードセーフティネットを構築するために、日々取り組んでいます。

日本には230万人もの人々がフードセキュリティにかけていると推定しており、ハーベストパントリーでは、そうした人々へ主食となるお米や基本的な調味料、生鮮食品や缶詰などを配布しています。今後も必要な方々をいかに見つけ届けるかという課題と向き合い、新たな方法を模索し続けています。

2013年度の活動

個人支援 食品と安心感を合わせて

ハーベストパントリーの活動では食品を通じた個人支援を、ピックアップとパッケージ送付という手段で行っています。ピックアップとは、難民、在日外国人、ひとり親家庭、失業中の方など様々な理由で生活が困窮している方たちが、事務所に直接食品を取りに来る活動です。特に、ピックアップで食品を受け取りに来る方々と顔を合わせて話す機会は、受け取り手にとっても大きな利点の一つであると考えており、社会の繋がりや孤独を和らげる安心感を食品と共に渡しています。

パッケージでは、所持金があと数百円しかない、失業してしまった、ひとり親家庭で子どもが大きくなって食費がかさみパート代だけでは生活が厳しいなど、緊急に食品が必要な人たちに食品を箱に詰めて送っています。実際には彼らには会ってはいませんが、毎週ボランティアたちが気持ちを込めてパッケージを作っています。2HJではパッケージ送付でお送りする食品を、企業や学校、イベントなどで個人へ向けて募り、一括して寄贈していただく「フードドライブ」で集める取り組みを強化しています。こうして集められた食品はバリエーションに富み、多くの組み合わせが可能であり、個人支援に非常に適しています。



食品パッケージを受け取った方からの声

困っていたところに届いた、大きな宝物 母子家庭の方からの声

食品が詰められた段ボールは、大変有り難いことにお米やお餅に調味料、お菓子里飲料にと、沢山の品物がぎっしりと詰まった宝箱でした。子ども達にはなかなか窮状を言えず、どうやって過ごそう…と思ったりするくらい色々なことに困っていたところでしたので、全ての人に感謝をして頂戴しました。本当にありがとうございました。

協力してくださった方々に感謝の気持ちを伝えたい 母子家庭の方からの声

大きな箱にぎっしりと詰めて頂きありがとうございました！パッケージが届くまで仕事続きで忘れていて、子どもと一緒に「なんだろう？」と思いながら開けると、素敵なものばかりで、疲れていた我が家に元気を頂いた気がします。この様な機会に感謝します。ご協力してくださった方々にこの気持ちを伝えたいです。ありがとうございました。

ボランティアさんの声

たくさんの食品 笑顔と感謝を添えて 三浦 佳織さん

かねてよりボランティアに参加したいと考えていた時、セカンドハーベストの存在を知りました。炊き出しやパントリーを経験して感じるのは、多くの人を介して食品が集まり、様々な人に届く。山盛りの食品を手渡す時、笑顔と感謝が関わった方全員に伝わればいいなと思います。

今年で7年目のボランティア活動に 横山 徹さん

当初は、ニュースキン・ディストリビュータのグループでの参加（毎月第二土曜日の炊き出しへの定期的参加）。2年前から土曜日のパントリーピックアップも月一回担当。ワケあって廃棄される運命の食品たち。もらって喜ぶ人の笑顔と感謝に毎回癒され、7年目に突入します。

2013年度の実績

食品パッケージ送付数

※東北向け食品パッケージは除く

2,257箱

ピックアップ合計人数

11,460人

今の課題と今後の展望

多様な食品を届けるための取り組み フードドライブ

パントリーでは、個人を対象に食品をお渡ししているため、様々な種類の食品が必要となります。また、2012年より食品を受け取る人たちが増えたため、量も必要になってきました。そこで2HJでは「フードドライブ」を実施しています。フードドライブとは、家庭で余っている食べ物を学校や職場などに持ち寄り、それらをまとめてフードバンクに寄附する活動です。2013年には多くの方たちがフードドライブに関心を持ってくださり、約50の企業や学校がフードドライブを実施、約2,800kgの食品寄贈がありました。フードドライブのおかげで、よりニーズにあった多様な食品をお渡することができました。フードドライブを実施するためののぼりなどのキットもそろえ、より多くの人たちに関心を持ってもらえるような取り組みを今後も行っていきます。

Photo by Natsuki Yasuda / studio AFTERMODE



Food Bank

フードバンク活動

企業や福祉施設、NPO団体などと連携して、中身の品質には問題がなく賞味期限も残っているのに様々な理由で廃棄されてしまう食品を寄贈してもらい、国内の生活困窮者の方々に届けています。

ある昼の2HJ事務所。郊外のスーパーや倉庫で引き取ったパンと野菜、果物、缶詰、調味料などを満載にしたトラックが戻ってきました。生活困窮者向けに炊き出しをしている団体や、給食をしている障害者支援施設、近隣で活動する他フードバンク団体の人たちが嬉しそうに食品を引き取って行きます。午後は配達へ。食べ盛りの子供を抱える児童養護施設や母子支援施設、元依存症の方の自立支援団体、生活困窮者向けの食堂など様々な場所で、多くの人が2HJから来る食品を待っています。何もしなければ活かされない食品たちを必要とする人達につなげる、私達の中心活動です。

2013年度の活動

多様化する支援の形

フードバンク活動のもたらす社会的影響、有用性への理解が拡がり、多くの企業が支援を開始・強化しています。2013年は220以上の企業から、お米、惣菜、生鮮野菜、調味料、飲料、お菓子などあらゆる種類の食品寄贈を受けました。食品関連企業のほか、防災備蓄品を寄付して下さる一般企業の数も着実に伸びています。また、食品以外でも、車両や備品の寄附、倉庫や輸送手段の無償提供、安全運転講習の無償開催、寄付つき自販機の設置、プロボノによるワークプロセスの改善など、有形無形の支援をくださる企業や団体の存在が2HJの活動を下支えし活動の幅を大きく拡げてくれています。

フードバンクを支える人達

施設等への食品の配送はその多くをボランティアドライバーさんがしてくださっています。2013年末の時点で月1回以上の定期的な配送コースは51あり、21コースは2HJのトラックで、30コースはボランティアさんが自家用車で配達を行っています。40人の配送ボランティアの方々には、受け取った食品に対する施設側の反応を報告していただき”必要な食品を必要な所へ届ける”ことに役立っています。11,228時間（2013年1月～12月の活動総時間）におよぶボランティアの時間の寄付が、フードバンク活動を支える貴重な資源となっています。

受け取った方からの声

食べ物を大切にすることも子どもたちに届いています
児童養護施設 野の花の家

皆様から食材を頂くことで、その分の経費を子どもたちの他の生活費に回すことが出来るため、とても助かっています。食べ物を大事にいただくというフードバンクの取り組みを通じて、子どもたちにも「食べ物を大切にする」という心が育ってまいりました。これも皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

メニューの内容が充実し、食事の楽しみが増えました
障がい者支援施設 アドバンスながうら

いつもおいしい食材をどうもありがとうございます。私たちの施設では頂いた食材を、主にお弁当に使わせていただいているのですが、利用者の皆さんのほうから、果物があったり、いつもよりメニューの内容が増えて嬉しい！という声を貰っており、食事の楽しみが増えました。とても感謝しております。ありがとうございました。

ボランティアさんの声

ライフワークとして続けていきたい
園田 厳さん
参加のきっかけはテレビのドキュメント番組。それから今年で5年目になり徐々に事務所スタッフの方々から色々任せさせて頂き週一回と月一回の定例配送等を行っています。何も問題の無い食べ物を必要としている方々へ直接お届けするスタイルに共感しています。今後もライフワークとして続けていきたいです。

「うれしい！」の一言が励みに
木村 久美子さん
山谷地域で路上生活者支援をしているNPOの活動を通じて2HJを知り、山谷地域にある施設への配送とドライバーズクラブのボランティア活動を行っています。毎週訪れることで、各々の活動内容を把握し、ニーズに合った食品を届けるように心がけているので、「うれしい！」の一言が励みになります。



2013年度の実績

届けた食べ物と飲み物の量

2,057トン

定期的な関東での
配送先施設・団体数(合計)

300カ所

今の課題と今後の展望

フードバンク活動が前進し続けるために

2013年は各食品サポーターを“栄養、ニーズ、連携の可能性”の3つの側面から再評価を図り、高水準の食品サポーターを重視しました。限られた時間、人材、財源の中では戦略的なパートナー関係を築くことが不可欠です。2014年は引き続きパートナーである施設も見直し、ニーズをよく理解することに力を入れます。その上で、より栄養価の高い食品を提供できる仕組みを構築します。また、この度セカンドハーベスト・ジャパン・アライアンス(2HJA)の設立に伴い、地方フードバンク団体への食品提供の方針を改定しました。2HJAは全国ネットワークの構築、フードバンク活動の基本となる規則の遵守といった設立趣旨のもと立ち上げられた公益財団法人です。この2HJAに私たちも加盟することで、同じく加盟を表明した団体への食品提供をより安全な形で継続することが可能になります。

Advocacy and Development

政策提言と 発展

日本中で 活動しています。

フードセーフティネット、
フードライフラインの構築のために

2HJを設立した2002年から、私達はフードバンクを広めるために北海道から沖縄まで日本中を訪ね、地方で新しくフードバンクを始める方々へ様々な形での支援をしてきました。また食べられる安全な食品を捨てずに活かす。フードバンク活動は、この社会にとって前向きな代替手段であると私達は信じています。

2013年度の活動

第6回フードバンクシンポジウム開催

2013年10月16日に第6回フードバンクシンポジウムを開催しました。このシンポジウムはシャングリ・ラ・ホテルで開催され、台風直撃の当日にもかかわらず156名もの方々が出席しました。地方フードバンクの紹介、韓国でのフードバンクシステム、企業のCRM活動についてと幅広く取り上げられ、会場全体を巻き込んだワールドカフェではフードバンクについての自分の考えを披露し共有する、という出席者同士の交流の機会を設け、様々なアイデアが出されました。



フードバンク活動の知名度 教育の現場でも

英語の教科書として広く活用されている、三省堂 CROWNの平成25年度版で、フードバンク活動についての取り組みがレッスン内容として取り上げられました。こうした動きも手伝い、授業や課外学習にボランティア活動を取り入れようと、私達の活動に参加する学校も増えました。

高校英語教科書
[CROWN English Communication I] (三省堂 発行)



世界のフードバンク団体との取り組み

フィリピンでの自然災害への対応から、スイスでの新たなプログラムについての訪問、各国でのフードバンクフォーラムへの参加など、私たちは多くの国々のフードバンク団体と出会ってきました。



※PAB, FABについては23ページをご覧ください



ビジネスバックグラウンドを活かして 2HJの発展に貢献

ガスキンス・リーランド

私はもともと2HJの隅田川沿いでの食料配布に2003年から関わっていました。

PAB が作られた時、私のビジネスバックグラウンドを活かして団体を助けることができるチャンスだと思いました。PABの会合では、メンバーはチャールズの相談役となり、違った視点から考えるように彼を諭すこともたびたびです。2HJは企業とのパートナーシップをうまく持ち、プロフェッショナルなマネジメントがなされている団体という点で、日本の多くのNPOと一線を画すと思います。PABでの意見が団体の助けとなり、長年の発展と成長に貢献したなら幸いです。



世界のケロッグ社で フードバンク活動を支援しています！

日本ケロッグ合同会社
代表職務執行者社長 井上ゆかり

日本ケロッグは2008年から2HJに寄贈しています。米国ケロッグが30年以上、米国のフードバンクに寄贈しており「日本でも」と話が来たのがきっかけでした。2013年は、10月16日世界食料デーに世界のケロッグ社でフードバンクへの取り組みを実施しました。日本では2HJ主催シンポジウムに出展、私を含めた合計12名のボランティア参加、11月に発生したフィリピン台風被害への支援物資を提供させて頂きました。

2013年度企業連携実績

2013年度にも、様々な企業と共に
多くの連携を行ってきました。

ニュー スキン ジャパン 株式会社様

2006年の3月から現在に至るまで、ニュー スキン ジャパン様から毎月150万円の寄付金をいただいています。そのお陰で2013年も継続して児童養護施設や母子生活支援施設の子供達へ食品を提供することができました。



合同会社西友様

合同会社西友様のレジ募金が2012年7月よりスタートしました。レジにあるカードから支援したい団体を選び、買い物カゴと一緒にに入れていただくと、精算の際に希望する金額の寄付ができます。集まった募金は2HJの日々の食糧支援活動に活用させていただきます。



ジェイティ飲料株式会社様

ジェイティ飲料株式会社様が2012年12月より2HJ支援自販機を設置されました。飲料を購入する際、2HJに売上の一部が寄付される仕組みです。購買者がNPOの支援に簡単に参加でき、飲料メーカーのイメージアップと売上向上にもつながる新たな仕組みです。



公益財団法人 セカンドハーベスト・ジャパン・アライアンス 設立までの歩み

セカンドハーベスト・ジャパン・アライアンス(2HJA)は2013年11月に内閣府の認定を受け公益財団法人として歩み始めました。
2HJAの目的は日本におけるフードライフラインとフードセーフティネットの構築になります。

日本初のフードバンク設立



全国放送
「ガイアの夜明け」が
フードバンクを特集



全国フードバンク・キャラバン及び
第2回フードバンクシンポジウムにて、
フードバンク・ガイドラインの
最初のドラフトを提示

地方フードバンク会議にて、
Global FoodBanking Networkが
様々な全国ネットワークモデルを紹介



第3回フードバンク
シンポジウムにて
「2010年度フードバンク
ガイドライン」
が署名される

2011年
2月19日～
20日

2011年
2月26日

2011年
秋

2012年
3月17日

2012年
春

2012年
9月

2012年
10月

2013年
2月13日

2013年
10月16日

2013年
11月29日

2013年
12月29日

名古屋、大阪及び九州へ
通常配送開始



2007年
3月

2003年
秋

2002年
3月11日

2008年
夏と秋

2009年
夏と秋

2010年
3月27日

2010年
6月26日

2010年
10月14日

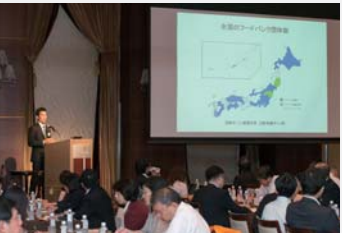
年次総会にて
全国フードバンクネットワーク
構築のための公益財団法人を
創設するという、2010年、
2011年の決議を再承認



全国ネットワーク創設の
最初の段階として、
フードバンク山梨及び
セカンドハーベスト沖縄との
連盟創設に着手



Fritz Instituteの協力を得て
物流専門家が来日し、フードバンク山梨及び
セカンドハーベスト・ジャパンの査定を行う



第6回フードバンクシンポジウムにて、
申請状況、2014年事業年度の方針
及び目標が説明される

内閣府の認定を受け、
2HJAが公益法人格を取得

フードバンク11団体が
2HJAへ加盟を申請

2HJA準加盟団体(2014年3月現在)

全国11のフードバンク団体が2HJAに加盟しています

- フードバンク山形
- ふうどばんく東北AGAIN
- フードバンク宇都宮
- フードバンク茨城

- フードバンク北関東(三松会)
- セカンドハーベスト・ジャパン
- セカンドハーベスト名古屋
- フードバンク関西

- フードバンク鳥取(みもざの会)
- フードバンクかごしま
- フードバンク セカンドハーベスト沖縄



Tohoku Relief Work

東北支援活動

東日本大震災発生の当日、帰宅困難者へ配った温かいスープから始まり、2日後には東北へ。
石巻市に拠点を置き、これまでに22,709箱の食品パッケージを送るなどの支援をしてきました。

宮城県石巻市は津波被害が大きかった地域です。石巻では仮設住宅7,153戸建設され、平成25年12月時点でうち6,523戸に14,824人が入居、民間賃貸借上住宅(みなし仮設)は4,604戸で12,012人が入居されています。また、様々な理由で仮設住宅等に入居できなかった在宅被災者が数多く居ます。セカンドハーベスト・ジャパンでは石巻被災者生活支援プロジェクトを立ち上げ、東京からは食品パッケージの発送、石巻に設置した拠点では現地企業や東北で活動するNPO団体 ふうどばんく東北AGAIN、フェアトレード東北と連携して活動してきました。

協力団体紹介

南相馬の仮設住宅へ
定期的な配送で支援をしています。

セーブ南相馬プロジェクト

2HJでは2011年の5月からセーブ南相馬プロジェクト(SMP)の活動を支援しています。SMPでは南相馬の仮設住宅で生活する方々への支援をしており、2HJからは食品を含めた生活必需品を提供しています。SMPの倉庫へ50トンものペットボトル飲料を届けたこともあり、これらは原子力発電所の付近で生活をする方の貴重な水資源となりました。SMPと2HJとは、定期的な配送を通じて南相馬への支援を継続する協力関係を結んでいます。



2HJに集めて頂いた水は
福島の子どものいのちの水となりました。

特定非営利活動法人FUKUSHIMAいのちの水

福島原発事故という未曾有の放射能災害の中に、子ども達が残されています。セカンドハーベストを通して送ってくださった水は、子ども達の飲み水ばかりか、ご飯を炊く水にまで使われ、文字通り「いのちの水」になりました。今日まで、500mlペットボトルで200万本、1000トンの水が子ども達に手渡されました。配給所には、事故後3年経った今も、一日に140人ほどの子どもが水を貰いに来ます。闘いはまだ続いています。



東北からのメッセージ



現在、民間賃貸
借上げ住宅に居住

佐々木 義弘さんと
奥さん

震災後、私達は県外で避難生活を送り、しばらくしてから石巻に戻ってきた時はそれまでのような生活設計が出来ずにいました。震災前の住宅ローンが重くのしかかっており、マイナス思考だった時に食糧支援を受けたので非常に助かりました。あの震災から2年2ヵ月が経ち、今になっては「前に向かって立ち直っていかない！」という思いがあります。



飲まず食わずの
日から

鈴木 とし子さん

震災後は3～4日間は飲まず食わず。震災後は周りに店が無くなり、あったとしても品数が少なく食料品を買うのが困難でした。そんな時に食糧支援を受けてものすごく助かりました。当時、水道水は薬剤を多く入れられていたそうで飲み水には適しておらず、特にお米と水が非常に助かりました。スパゲティや桃缶も嫁夫婦に分けたりして使いました。ありがとうございました。



トリマーの
仕事再開に向けて

布施 友美さん

震災直後は何が起ったか分からず、先行きも見えなかった。今でもこの震災は終わっていません。震災後に生まれた息子と一緒に生きていくので精一杯です。セカンドハーベスト・ジャパンから受け取った支援で子供のミルクやお米をいただき本当に助かりました。感謝の言葉しかありません。おかげさまで今はトリマーの仕事を始める準備をしています。

2013年度の実績

協力団体を通じて東北各地へ発送した
水の量

119,301リットル

協力団体を通じて東北各地へ発送した
食品の量

501.1トン

東京から発送したパッケージと石巻拠点
から直接お渡しした食品パッケージ数

8,391箱

今の課題と今後の展望

地に根ざした支援の仕組みづくりを

2013年の活動で行政や各生活支援団体との連携が増えたことにより、食糧支援が必要な方へと届けられるネットワークが出来始めました。また、他の団体・組織と情報共有をするための支援者会議等への参加により食を通じた新たなセーフティネットの構築についての必要性について伝えてきました。今後は食を通じた新たなセーフティネットを地元主体で行っていけるようにフードバンク活動を行うための仕組みづくりを地域の社会福祉資源や地元企業と連携して行っていくことで、被災により経済的に困難・困窮している世帯にしっかりと食品が届く仕組みを構築していきます。

支援者からのメッセージ

「食料支援」はホットライン活動に欠かせないもの。

遠藤 智子さん 一般社団法人 社会的包摂サポートセンター 事務局長



「よりそいホットライン」は、国の補助金をいただいて実施している24時間無休の何でも電話相談です。連日3万件を超える電話にはライフラインが停まり、所持金も食料もないという相談も沢山あります。そんな時「食料支援を頼みましょう!」と対応しています。2HJの存在にどんなに助けられていることか分かりません。日本のフードセキュリティは脆弱です。いま最も必要とされている皆さんの活動・挑戦に心から期待しています。

フードバンクネットワークの拡大に期待します。

合田 久輝さん

伊藤 見富法律事務所／モリソン・フォースター外国法事務弁護士事務所(外国法共同事業事務所)弁護士



2HJとのお付き合いは、東日本大震災直後に被災者支援についての問合せから始まります。以後様々な情報をご提供頂きながら、当事務所の弁護士、職員一同でできる支援を微力ながら継続しています。2HJが日本におけるフードバンクの草分けとして構築してきたノウハウに加え、緊急時の迅速な対応をも活かしてご活躍されると共に、より多くのコミュニティに認識され、フードバンクネットワークが更に拡大する事を期待しています。

私はフードバンク活動が好きです。

矢野 稔さん

植田製油株式会社 常務取締役



7年前にチャールズの講演でこの活動を知り、愛してきた。まだ食べられる廃棄食品の寄贈を食品企業にすすめるのが私の役割。好きでやっていることなので世の為、人の為とも思っていない。自分の為と思っている。恋人に賞賛や謝礼を求める人はいない。ただ愛情が深まるように相手を理解することは必要だ。フードバンク活動を愛する私は、食品企業への説得術も磨きたいし、食に困っている人々への理解を深める努力も続けていきたい。

強くて優しい絆創膏に。

大原 悦子さん ライター・津田塾大学教員



みんなが得するというシンプルで前向きなシステムに共感。以来ずっと応援しています。2008年には『フードバンクという挑戦』という本を書きました。フードバンクは絆創膏、所詮は応急処置だと言う人もいます。でも最初は小さな傷口が命を脅かす事態を招くこともあるでしょう。応急処置って大事なんですよ。傷ついた人がすぐ手に入れることができる、強くて優しくて頼りになる絆創膏。2HJはそんな存在であってほしいです。

セカンドハーベスト・ジャパン様と協力企業様との架け橋にJPRレンタルパレットをご提供します。

中村 浩太さん 日本パレットレンタル株式会社 次世代事業PJ



2HJ様の活動において商品が納入される際の手荷役は重労働になります。JPRは納入される商品の積載にレンタルパレットをご利用いただくことをご提案しています。荷降ろし作業が短時間かつ苦労なく倉庫に入庫され、空いたパレットはJPRが回収するという運用を実施しています。少しでも2HJ様の活動がスムーズになるよう、協力企業様と2HJ様の架け橋になれるよう、物流面からこれからも協力していきたいと考えています。

無理なく継続的に、これからもたくさんの笑顔を受けよう お付き合いさせて頂きます！

横塚 元樹さん アサヒロジスティクス株式会社 代表取締役社長



決め手となったのは「無理なく継続的に」というお言葉。食品物流を専門に営む弊社において本業の物流で社会貢献できるお話は非常にありがたく、社員も積極的に取り組んでくれました。弊社従業員の家族向けの物流センター見学会イベントに児童養護施設のお子様を招待した時は、その喜んでいる姿に皆涙を流して感動していました。沢山の学びを得られるよう無理なく継続的に、そして積極的にお付き合いさせて頂きたいと考えています。

セカンドハーベスト・ジャパンの広報活動

もったいない食べ物と、食べ物に困っている人、という、2つの大きな社会的課題に関わる2HJの活動。

NPOの広報ということで予算ゼロながらも、NHKに合計8回のテレビ・ラジオ出演をはじめ、5大メディアに年間約50回とりあげて頂きました。

食品ロスをもたらず商慣習「3分の1ルール」に対して

流通業界の商慣習「3分の1ルール」に対し、2HJは、メディア出演時の発言やコラムなどで声をあげてきました。2012年10月、農林水産省と流通経済研究所、食品業界(製配販)が集まり、この見直しを検討するワーキングチームの初会合が開催。2013年3月、中間報告の中でロス削減の一つとして「フードバンクの活用」が取り上げられました。2013年4月、食品リサイクル法改正ヒヤリングに2HJが出席、意見を述べました。



農林水産省「食品ロス削減シンポジウム」での講演

日本で発生している食品ロスが食料問題や環境問題、経済問題などへ与える影響から、2012年夏に国は農林水産省・消費者庁・環境省・内閣府の4省庁連携で食品ロス削減に取り組む事を決定(2013年2月には文部科学省、2013年8月には経済産業省も加わる)。2013年3月5日と8日には農林水産省「食品ロス削減シンポジウム」が開催、2HJは「フードバンク活動の紹介」というタイトルで講演しました。



講演実績(2013年度一部抜粋)

全37講演／聴講者数合計:4349名

1月31日	神奈川県民主医療機関連合会「2012年度共同組織担当者研修会」
2月1日	公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会(NACS)
2月21日	東京都環境局 環境講座
2月24日	食生活ジャーナリストの会 公開講座
3月5日	農林水産省「食品ロス削減シンポジウム」東京会場
3月8日	農林水産省「食品ロス削減シンポジウム」大阪会場
3月19日	一般社団法人 日本食品包装協会主催 第46回食品包装シンポジウム
3月21日	東京都港区3R推進行動会議
3月21日	エクセレントNPOフォーラム「市民社会は強くなったのか」
3月22日	第九回 教育系NPOと文部科学省省内勉強会と意見交換会
4月5日	日本食糧新聞社主催 惣菜デリカ・弁当・中食・外食業界の業務用専門展FABEX
4月16日	JICA地球ひろば ホップ!ステップ!!国際協力について
4月24日	全国生活学校連絡協議会 渋谷区生活学校連絡協議会総会
5月27日	三越伊勢丹(女子栄養大学「食文化情報論」非常勤講師として)
7月13日	日本NPO学会
8月8日	埼玉県
9月12日	日本生活協同組合連合会
11月16日	東京都環境局 食品ロスの削減に向けたシンポジウム
12月12日	鳥根県社会福祉協議会

スタッフ紹介



マクジルトン・チャールズ

CEO

この仕事は、一生に一度出会えるかどうかの仕事だと思っています。素晴らしい人達と一緒に、新しいコンセプトをこれまでにないやり方で開拓しているのですから。日本は、私に多くのものを与えてくれました。これが、私の小さな恩返しです。私の元気の秘密は、スパムをたくさん食べることです。



會田 博志

施設管理／WEBサイト管理
食品衛生責任者

食う寝るところに住むところ…。何も食べずに生きていくことが、ぼくらには出来ない。食事を作ったり、食べたりが好きだから、この仕事をしています。コンピュータ畑からの転職。猫好き。



黒澤 剛

フードバンク部

飲食関係のアルバイトや小売店での経験を経て、日常的に当たり前のように余っている食品を何かに生かせないかと思っていて、この仕組を新聞を見た瞬間にこの活動に一生関わっていこうと思いました。



井出 留美

広報／マネジメント・チーム 食品衛生責任者

前職(外資系食品企業広報)では2HJに寄贈する側。震災で、必要な所に食べ物が届かないことにもどかしさを覚え、2HJへ転身。5歳から食に興味を持ち大学院栄養学博士課程へ。青年海外協力隊フィリピンOG。隊員時代の任地で日本の規格外のため廃棄されるオクラを救うフードバンクを開始。



芝田 雄司

石巻駐在スタッフ 石巻プロジェクト担当

新聞で2HJを知り、以前から食品ロスの問題に興味があったので「これはやらなきゃ!」と思い、すぐにボランティア登録。施設への食品配送ボランティアを行う。震災を機に2HJに転職。石巻プロジェクト担当として現地で奮闘中。



菊地 章子

事務局／フードバンク

2007年の夏に、何気なく目を通した雑誌記事よりセカンドハーベスト・ジャパンを知り、魅了される。2008年の冬では、ボランティア活動に初参加、多国籍な人たちとの交流がとにかく楽しい!と実感。2009年春より事務スタッフとして従事。



安田 淳子

パントリー部長／会計

スタッフ最年長。若いスタッフの優しいお母さんの存在をめざしているが、実際は、「いじわるばあさん」に向かいつつある…かも。2009年早春より勤務。



河田 了

情報システム担当
調理師・食品衛生責任者

ひきこもり時代にこっそり通った図書館で「フードバンクという挑戦」(大原悦子著)に感動し2HJでフルタイムのボランティアを始める。3.11後スタッフになり社会復帰させてもらった恩返しをすべく業務に励む。



パルマー・セーラ

政策提言と発展

日本の公立中学校に英語教師として3年間務め、上京して以来、社会に貢献したいと思い2HJに入社。美味しい食べ物は文化の壁を超えて人々の心に届きます!そう信じています!



高原 恵

ボランティア・コーディネーター／マネジメント・チーム
食品衛生責任者

美味しい食事は世界を平和にできる、という母のもとに育つ。ボランティアの皆さんとチーム一丸となって、毎回楽しく活動しています。土曜日の炊き出しでは主に味見担当!?



杉山 祥子

パントリー／マネジメント・チーム

以前は女性と子どものシェルターで働いていました。新しく生活を始める親子にとって、2HJの存在は食べ物以上のものでした。「誰かが気にしてくれている、一人じゃないって思える」そんな声を大切にしながらやっていきたいです。



伊藤 令華

フードバンク部

3.11の震災を機に現実の社会の課題と向き合おうと決め、大学卒業後2HJへ就職。捨てられる運命にあった食品がおいしい食事となり、食べること以上の価値を生みます!日々の食品運びでだんだん腕がムキムキに…



大竹 正寛

セカンドハーベスト・ジャパン・アライアンス

米国在任時にフードバンクの存在を知りwin-winな仕組みに魅了されました。想像以上にやりがいのある仕事で楽しんでいます。現在は日本におけるフードバンクの普及と発展のため公益財団法人セカンドハーベスト・ジャパン・アライアンスを設立し、活動を進めています。

役員



マクジルトン・チャールズ

理事長

資金調達者、演説家、日本においてのフードバンキングの促進者です。



柴田 耕祥

理事

セカンドハーベストの運転手として物資を運んでいます。一週間に数回、妻のセイセイさんと共に人々に食べ物をお届けしています。セカンドハーベストと関東、名古屋、関西においての企業や組合を繋いでます。



鮎島 一匡

理事

セカンドハーベストでボランティアとして活動を始め、後に食料配送担当として2HJのスタッフとなりました。2011年にセカンドハーベストを退職し、現在はFCCC共生地域創造財団のCOOを務めています。



ニコラス・ハントリー

理事

セカンドハーベストの初期からのメンバー。自らの時間を使って倉庫管理の手伝いを行い、何トンという食料品を管理してきました。ピンチの時には常に頼りになる存在です。



ジョン・ベイルズ

理事

アリスンオーガニックセンター／テングナチュラルフーズの創設者兼オーナーであるジョンは、自身の食品輸入業者・販売者としての経験や知識に基づいた価値あるアドバイスを長い間に渡ってセカンドハーベストに提供しています。アリスンでは、顧客が買い物の際にセカンドハーベストに物品寄付をするとアリスンがそれと同額の物品寄付をするという“善意の共有”を行っています。これにより、ジョンは他の企業に対する先導となっているのです。



ガードナー・リチャード

理事

ガードナー・リチャードは、上智大学の国際教養学部にて、30年以上にわたり宗教や様々な科目を教えてきました。そして、同大学の国際教養学部部長や、夏期授業のディレクターも務めてきました。また、米国のミシガン州カラマズーを拠点とするフェッツァー・インスティテュートの教育諮問協議会の委員でもあります。



ガスキンス・リーランド

理事

プロフェッショナル・アドバイザー・ボードの最初のメンバーとして、2HJが財務モデルや成果測定規準を作る際や事業計画の更新をする際に、米国フードバンクの例を参考に中心となって活躍してくれました。2005年7月からアジアにおいてノースカロライナ州の海外投資誘致を担当し、米国における投資プロジェクトに関してアジアの企業をサポートしています。

FAB

フード・アドバイザー・ボード

食品企業や関連企業の担当者が集まり、フードバンクや食品業界に関するアイデアを共有する場です。この集まりは、2HJの新しい取り組みについて有益なフィードバックを出すだけでなく、寄付を検討している新規企業にとって2HJの活動を知る最初の入り口にもなっています。



PAB

プロフェッショナル・アドバイザー・ボード

この集まりは、海外からの外国人駐在員が集まり、彼らのネットワークやビジネス上の経験を駆使して、ビジネスのやり方に沿った2HJの成長を手助けするものです。外部者によるリアリティチェックとなるだけでなく、2HJのマネジメントと発展を促進するアドバイスを提供してくれています。



2013年度中に寄付や食品、物品の寄贈、ボランティア参加、また物流面での支援など、様々な形で活動を支えてくださった皆様の中から一部をご紹介します。

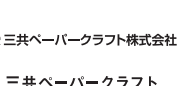
食品サポーター

 アサヒ飲料株式会社	 合同会社 西友	 日本生活協同組合連合会	 サントリーホールディングス株式会社	 キッコーマン株式会社	 株式会社シジシージャパン
 株式会社香番屋	 加藤産業株式会社	 キャンベルジャパン株式会社	 キュービー株式会社	 ケンコーマヨネーズ株式会社	 コストコホールセールジャパン株式会社
 ジェイティ飲料株式会社	 株式会社 大地を守る会	 ダノンウォーターズオブジャパン株式会社	 ダノンジャパン株式会社	 日欧商事株式会社	 日仏貿易株式会社
 日本ケロッグ合同会社	 日本水産株式会社	 ネスレ日本株式会社	 ハーゲンダッツ ジャパン株式会社	 ハインツ日本株式会社	 株式会社マルハニチロホールディングス
 三菱食品株式会社	味の素冷凍食品株式会社 / オイシックス株式会社 / 大塚食品株式会社 / カゴメ株式会社 / 株式会社カタログハウス / 株式会社カナエフーズ / 株式会社 河本総合防災 / シマダヤ株式会社 正田醤油株式会社 / 月島食品工業株式会社 / テーブルマーク株式会社 / 東京ガス株式会社 / デリカフーズ株式会社 / 東洋水産株式会社 / 株式会社ドール / 株式会社 中村屋 日本アムウェイ合同会社 / 株式会社ハートフード / パルスシステム生活協同組合連合会 / ヒーシュタント ジャパン株式会社 / ひかり味噌株式会社 / ヒゲタ醤油株式会社 / 株式会社 耐忠 ミエプロジェクト株式会社 / 株式会社ミトク / 株式会社モスフードサービス / モランボン株式会社 / ヤマサ醤油株式会社				

資金サポーター

 ニュースキンジャパン株式会社	キャタピラー・ジャパン株式会社 / アメリカン・エクスプレス・ジャパン株式会社 / 特定非営利活動法人TABLE FOR TWO International The Orinoco Foundation / 連合・愛のキャンパ / キャンボスブラザーズファームス / Fresh Pacific Fruit & Vegetable, Inc. ブルームバーグ エル・ビー / BNYメロン / Shinichi Kawai / Katsuhiko Nakajima / Bierer Wolfgang / モルガン・スタンレー True North / J.P.モルガン / キャピタル・インターナショナル株式会社 / 株式会社セールスフォース・ドットコム アメリカンスクール・イン・ジャパン / 清泉インタナショナルスクール / グリフィス・ラボラトリーズ株式会社 / Sanwa Group Hitoshi Miyake
 ドイツ銀行グループ	
 合同会社 西友	CIEE / 大原 悦子 / リンベル株式会社 / ゴールドマン・サックス証券株式会社 / 聖アルバン聖公会 / ブルーカレント・ジャパン株式会社 / 順天中学校・高等学校 ウェスト東京ユニオン教会 / モリソン・フォースター外国法事務弁護士事務所／伊藤 見富法律事務所 / 日本食品関連産業労働組合総連合会 / 株式会社 八洋 / Keichi Sato Simon Clip / 一般社団法人東京アメリカンクラブ / アズビルみつばち倶楽部 / Noriyuki Kori / 株式会社 ミネタ製作所 / 在日アフリカ諸国大使 ミリタリーチャリティライブ実行委員 / Hiromi Uenohara

その他のサポーター

 アサヒロジスティクス株式会社	 ALISHAN	 有限会社ウェルワーク	 三共パーククラフト株式会社	 三共パーククラフト株式会社	 三共パーククラフト株式会社	 三共パーククラフト株式会社	 三共パーククラフト株式会社
 ドイツ銀行グループ	 ニチレイロジグループ	 日本パレットレンタル株式会社	 ひかり味噌株式会社	 ブルームバーグ エル・ビー	 三越伊勢丹グループ労働組合	 モリソン・フォースター外国法事務弁護士事務所／伊藤 見富法律事務所	 株式会社 ワイズワークスプロジェクト
スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社 / 有限会社宮寄浩保険事務所 / 豊田 真宏 / 中村 創 / 三浦 正弘 / 湯村 茂和							

会計報告 (2013年1月1日～2013年12月31日)

1. 活動計算書(簡易版) (単位:円)

科目		金額	
Ⅰ 経常収益			
1 受取会費	会員受取会費	26,000	
	受取入会金	18,000	44,000
2 受取寄付金	受取寄付金	125,951,655	
	ボランティア受入評価額	40,120,575	166,072,230
3 事業収益	政策提言による事業収益	890,144	890,144
4 その他収益	受取利息	10,019	
	為替差益	7,584,615	
	雑収益	131,678	7,726,312
経常収益計			174,732,686
Ⅱ 経常費用			
1 事業費	ボランティア評価費用	39,722,825	
	(1) 人件費	39,561,618	
	その他人件費		
	人件費計	79,284,443	
(2) その他経費	その他経費計	59,078,076	
	事業費計		138,362,519
2 管理費	ボランティア評価費用	397,750	
	(1) 人件費	6,388,714	
	その他人件費		
	人件費計	6,786,464	
(2) その他経費	その他経費計	9,255,599	
	管理費計		16,042,063
経常費用計			154,404,582
当期経常増減額			20,328,104
Ⅲ 経常外収益			
経常外収益計			0
Ⅳ 経常外費用			
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			20,328,104
法人税、住民税及び事業税			0
当期正味財産増減額			20,328,104
前期繰越正味財産額			105,562,567
次期繰越正味財産額			125,890,671

※計算書類の作成は、東京都に提出する活動報告書の書式に則り、NPO法人会計基準によっています。
固定資産の減価償却は、建物に旧定額法、その他の有形固定資産は定率法、無形固定資産は定額法によっています。
消費税等の会計処理は税込法によっています。
※事業別収支の詳細は、当団体ウェブサイトからご覧いただけます。
※ボランティアの役務の評価は一般のボランティアについては東京都の最低賃金により算定し、
プロボノによる役務については各専門職の標準報酬額を基準に算定しています。

2. 貸借対照表 (単位:円)

科目		金額		
Ⅰ 資産の部				
1 流動資産	現金預金	125,607,362		
	前払金	11,051		
	仮払金	586,240		
	流動資産合計		126,204,653	
2 固定資産	(1)有形固定資産	建物付属設備	2,774,217	
		車両運搬具	1,809,588	
		什器備品	604,437	
		有形固定資産計	5,188,242	
	(2)無形固定資産	ソフトウェア	718,200	
		無形固定資産計	718,200	
	(3)投資その他の資産	敷金	2,388,600	
		投資その他の資産計	2,388,600	
		固定資産合計		8,295,042
		資産合計		134,499,695
Ⅱ 負債の部				
1 流動負債	預り金	397,024		
	仮受金	8,212,000		
	流動負債合計		8,609,024	
2 固定負債	固定負債合計		0	
負債合計			8,609,024	
Ⅱ 正味財産の部				
前期繰越正味財産		105,562,567		
当期正味財産増減額		20,328,104		
正味財産合計			125,890,671	
負債及び正味財産合計			134,499,695	

独立監査人の監査報告書

セカンドハーベスト・ジャパン

理事 マクジルトン・チャールズ・アール 殿

私は、セカンドハーベスト・ジャパンの平成25年1月1日から平成25年12月31日までの計算書類、すなわち、活動計算書、貸借対照表及び財産目録について監査を行った。
この計算書類の作成責任はセカンドハーベスト・ジャパンにあり、私の責任は独立の立場から計算書類に対する意見を表明することにある。
この監査に当たって、一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠し、必要と認めた監査手続を実施した。
監査の結果、上記の計算書類が、セカンドハーベスト・ジャパンの収支及び財産の状況を適正に表示しているものと認める。
なお、セカンドハーベスト・ジャパンと私との間には利害関係はない。

事業所名称 公認会計士 中島就吾事務所
公認会計士
作成日：平成26年2月20日

中島就吾

セカンドハーベスト・ジャパンが
目指すもの

日本のフードバンク活動に参加する企業、NPO、個人等が
ますます増えてきていることに大変励まされます。
セカンドハーベスト・ジャパンは今後も先進的なモデルを用い、
支援を必要とする人たちのために食品を集め、提供していきます。

フードライフライン

食品を提供する企業、受け取る施設・団体がフードバンクをより利用しや
すくなるよう、特に流通企業や食品企業などの協力を得ながらソフト・
ハード面でのフードバンクのインフラを作ります。

フードセーフティネット

いつでも地域にて緊急食料援助を受けられるような食のセーフティネット
を構築します。

新たな取り組み

公益財団法人セカンドハーベスト・ジャパン・アライアンス(2HJA)

2HJAは、中央行政とより密接な協力関係を築き、全国にフードバンク活動を普及させる
ために設立された公益財団法人です。その使命は、全国フードバンクネットワークを通じ
て、フードセーフティネットとフードライフラインを構築することです。

- 加盟団体になるには、以下の要件を満たす必要があります。
- 【1】法人格を有している
 - 【2】事業計画書を定めている
 - 【3】2年間のフードバンク活動実績を有する
 - 【4】外部専門家による諮問委員会の設置
 - 【5】2014フードバンクガイドラインを遵守する
 - 【6】年に一度、監査を受ける

フード・ドナー・アライアンス(FDA)

FDAは食品廃棄の代わりに食品寄付を行うこ
とを促進し、その基準を設けるため創設されま
した。加盟メンバーは次の活動内容により、フー
ドバンクが余剰食品と需要の適合という社会
的価値のある役割を果たせるよう協力します。

- 【1】フードバンクロゴを使いフードバンクの
認知度を向上、促進
- 【2】フードバンクの発展をサポート
- 【3】「2014食品寄贈ガイドライン」に署名





セカンドハーベスト・アジアについて

セカンドハーベスト・アジア (2HA) は、セカンドハーベスト・ジャパン (2HJ) の姉妹団体としてアメリカに設立された 501 (c) (3) 非営利団体です。2HA は、日本を含むアジアにおけるフードバンクの発展を促進するというミッションの下、日本の2HJの設立者であるマクジルトン・チャールズが中心となって、2010年4月6日にミネソタ州に設立され、現在アメリカからアジアのフードバンクの支援活動を行っています。これまでに、日本のフードバンク団体スタッフを招いて、アメリカの本格的なフードバンク団体 (San Francisco Food Bank、St. Mary's Food Bank Alliance) にて研修やインターンシップ事業を行ってきました。

また、それ以外にもシンガポール、マレーシア、香港、フィリピン、韓国、台湾等のフードバンク団体、ネットワークと交流を行い、アジア内のフードバンク活動の更なる発展のために寄与しています。2012年10月15日と16日には香港にてフードバンク会議、シンポジウムを開催しました。



セカンドハーベスト・ジャパン / Second Harvest Japan

〒111-0053 東京都台東区浅草橋4-5-1 水田ビル1F TEL:03-5822-5371 / FAX:03-5822-5372



2ndharvestjapan



@2ndharvestjapan

www.2hj.org

2HJ

検索